

昭和五十五年八月

第三回館山市議會臨時會會議錄

館山市議會

目次

日時	二
場所	二
出席議員	二
欠席議員	二
出席説明員	二
出席事務局職員	二
議事日程	二
開会	二
議長の報告	二
議案の配付	二
会議録署名議員の指名	二
会期の決定	三
議案第五十一号乃至議案第五十二号	三
提案理由の説明	三
石井武敏君の質疑、当局の応答（議案第五十一号）	四
網島憲治君の質疑、当局の応答	七
委員会付託の省略	七
採決	八
神田守隆君の質疑、当局の応答（議案第五十二号）	八
網島憲治君の質疑、当局の応答	八
藤田益治君の質疑、当局の応答	八
近藤好雄君の質疑、当局の応答	九
委員会付託の省略	九

採
閉
会
本日の会議に付した事件
決（議案第五十二号）
九
九
九

一、昭和五十五年八月十二日（火曜日）午前十時

二、館山市役所議場

三、出席議員 二十六名

一	番	神田	守隆	二	番	石井	謀
三	番	綱島	憲治	四	番	横溝	功
五	番	福原	勤	七	番	古賀	礼四郎
八	番	石井	昌治	九	番	松下	正己
一	番	林	豊	一	番	栗原	一雄
一	番	近藤	好雄	一	番	渡辺	昭夫
一	番	伊藤	幸太郎	一	番	流山	源次郎
一	番	石井	輝久	二	番	石井	武敏
二	番	吉田	勇治郎	二	番	藤田	益治
二	番	菊井	敏博	二	番	和田	一郎
二	番	五十嵐	昇	二	番	伊賀	多朗
二	番	石井	正	二	番	安澤	徳順
二	番	安西	益男	三	番	山口	康
一	番	欠席議員	二名	三	番	山口	康
一	番	押元	稔	一	番	黒川	平治

一、出席説明員

市	長	半澤	良一	助	役	小倉	澄男
収入	役	太田	博雄	総務	部長	石田	雄一
教育	委員会	山口	武重	教育	委員会	安田	豊作
委員長				委員長			
一、出席事務局職員							
事務局	長	高尾	豊	事務局	長補佐	石井	敏夫
書記	兵藤	恭一		書記	鈴木	木哲	

書 記 石井 一夫 書 記 嶋田 範夫

一、議事日程

昭和五十五年八月十二日午前十時開議

日程第一 会議録署名議員の指名

日程第二 会期の決定

日程第三 議案第五十一号 工事請負契約の締結について
議案第五十二号 工事請負契約の締結について

開 会 午前十時一分開会

○議長（五十嵐 昇君） 本日の出席議員数二十六名、これより昭和五十五年第三回市議会臨時会を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

議長の報告

○議長（五十嵐 昇君） 本臨時会議案審議のため、地方自治法第百二十一条の規定による出席要求に対し、お手元に配付のとおり出席報告がありましたので御了承願います。

議案の配付

○議長（五十嵐 昇君） ただいま市長から議案並びに説明書の送付がありました。

議案並びに説明書を配付いたさせます。

配付漏れはありませんか。――配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

会議録署名議員の指名

○議長（五十嵐 昇君） 日程第一、会議録署名議員の指名を行います。

一二番議員栗原一雄君、一八番議員流山源次郎君、以上両君を指名いたします。

会期の決定

○議長（五十嵐 昇君） 日程第二、会期の決定を行います。

本臨時会の会期につき議会運営協議会の意見は本日一日ということであります。

お諮りいたします。会期を本日一日と定めますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって会期は本日一日と決定いたしました。

議案の上程

○議長（五十嵐 昇君） 日程第三、議案第五十一号及び議案第五十二号の各議案を一括して議題といたします。

提案理由の説明

○議長（五十嵐 昇君） これより各議案の提案理由の説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 本日、ここに急速第三回市議会臨時会を招集いたしましたところ、議員の皆さま方におかれましては御多忙

の中を御出席賜り、誠にありがとうございます。

今回、急施を要する案件として御容議をお願いいたします案件は、去る八月四日に、ともに指名業者十社をもって指名競争入札を執行した工事請負契約の締結に係るもの二件でありまして、いずれも文部省の補助事業であります。

まず、議案第五十一号工事請負契約の締結について御説明申し上げます。

那古小学校屋内運動場改築工事に係る指名競争入札において落札に至りませんでしたので、最低の価格をもって入札をした者から見積書を徴した結果、一億二百万円をもって渡辺建設株式会社と随意契約により工事請負契約の締結をしようとするものであります。

工事内容といたしましては、現在の老朽化した講堂を取りこわし、体育室、ステージ、用具庫、控室、玄関、便所及び更衣室を備えた鉄筋コンクリートづくり平家建て、面積七百二十平方メートルの屋内運動場を建築しようとするもので、工期を翌年二月二十八日までとするものであります。

次に、議案第五十二号工事請負契約の締結についてであります。が、九重小学校校舎及び九重幼稚園園舎改築工事に係る指名競争入札の結果、株式会社計工務店が一億三千五百八十万円をもって落札いたしましたので、同社と工事請負契約の締結をしようとするものであります。

工事内容であります。が、小学校部分は、普通教室六室及び職員室等管理諸室六室からなっておりまして、面積は千二平方メートルであります。また、幼稚園部分は、保育室、プレイルーム、

便所及び倉庫各一室を備えたもので、面積は二百三平方メートル、合計千二百五平方メートルの鉄筋コンクリートづくり二階建ての校舎及び園舎を建築しようとするものであります。

なお、既存校舎の一部取りこわしを本工事に含めております。工期は翌年二月二十八日までとするものであります。

以上、提案理由について御説明申し上げましたが、いずれの案件も急施を要するものでありますので、なにとぞ慎重なる御審議を賜りますようお願い申し上げます。提案理由の説明を終わります。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で提案理由の説明を終ります。

質 疑 応 答

○議長（五十嵐 昇君） これより各議案の審議を行います。

まず、議案第五十一号工事請負契約の締結について御質疑を願います。

○二〇番（石井武敏君） 議案第五十一号でございますが、提案理由の説明をお聞きましたと、ここに活字になっておりますが、「指名競争入札において落札に至りませんでしたので最低の価格をもって入札をした者から見積書を徴した結果」ということなっており、渡辺建設と工事請負契約の締結をしようとするものですけれども、この指名競争の入札で落札に至らなかったという状況の何か特別な理由があるかどうかお尋ねをしたいと思っております。過去に学校施設に関しまして入札、落札の経緯を見ますと、こういった例が過去にあったかどうか。過去の例の理由と比較して今回特別な理由があるか、そのへんを確認しておきたいと思っておりますので、御説明のほどをお願いしたいと思いますというわけでございます。

また、五十一号に關しては、いままで体育館——屋内運動場というものは各所に建設をされてきておると思いますが、この建設の仕方としてはここに説明がございしますが、体育館、ステージ、用具庫とか、更衣室等々の施設を含めまして、いままでと同じようなつくり方で、同じようなものをつくるようであるように説明からは受け取れますが、何かいままでは違った配慮がなされているものがあるかどうか。いままでの建築方法、構造あるいは使用方法、そういうものがどのように違っているのか。違うものがあれば説明願いたいと思います。いままでも同じものができるのであれば、そういうことであれば結構でございます。お願いしたいと思います。

それから、学校施設の建設をしたあとのアフターサービスについてお尋ねをしたいと思うんですが、建設をしましてから、契約によりまして何年契約で、たとえば雨漏りがする、あるいは地震があった場合はどのように直す、火災のあった場合——火災の場合は漏電による火災とその他の原因の火災と大きく違っていますので、このへんは非常にむずかしいことと思いますが、火災は非常に学校関係多いという事実がございしますのでお尋ねするわけでございますが、何年まで契約の内容からみまして保証されているのか。保証といいますが、何かあった場合に補償するということ取り決めがあるのか。

また、その取り決めは、単に業者と市が行うものであるのか、あるいは何か法令に基づいて義務づけられているのかどうか。このへんをお聞きたいと思っております。

○総務部長（石田雄一君） 二〇番議員の御質問の第一点について

お答え申し上げますけれども、今回の指名競争入札の結果、落札に至らず、結果的に随契になったわけでございますけれども、それにつきまして過去との比較を申し上げますと、やはり同じような例があったわけでございますけれども、今回も最低の価格の値と随契によります数字の差がごく僅少でございますして、一劣弱という僅少の差でございますして、それによりましての随契でございます。特別の事情は特にございません。

それから、第三点のほうの質問でございますけれども、アフターサービスのお話でございましたけれども、請負契約の中にいわゆる瑕疵担保の期間設定というのがございますして、事業完成後に瑕疵のありました場合には、鉄筋の場合には引き渡しを受けまして二年以内、木造の場合には一年、なお、故意または重大な過失によりますケースの場合には十年間ということで、契約条項にうたい込んであります。

以上であります。

○教育長（安田豊作君） 第二点についてお答えいたします。

つくり方の――部屋の割りふりについては、従来の体育館――いままでつくったものと変わりありません。それから、七百二十平米という広さは那古小学校の規模にあった文部省基準のものであります。ただ、構造といえますか、つくり方がいままでは鉄骨づくりでありましたものを、今回は鉄筋コンクリートづくりになったというところが変わっております。

以上です。

○二〇番（石井武敏君） ただいま御説明をいただいたわけでございまして、あらあら了承はしているわけでございますが、こ

の随意契約で、見積書の額と市側の考えている額が非常に僅差であったという説明がありました、どの程度の差があったのか御説明願います。

それから、先ほどのアフターサービスに關しまして、十年間という言葉が返ってききましたけれども、十年間という範囲までできるかも少し具体的に確認しておきたいと思ひます。

それから、今回の屋内運動場は鉄骨ではなく鉄筋であるという教育長の御説明でございまして、非常に鉄筋というところがんじゅうにできる、しかし、非常に予算面からみると鉄筋と鉄骨では大きな開きが出てくるのではないかと思います。

また、今回の契約の内容、一連の契約内容、これは地元の業者から選択されているわけでございますが、おそらく三中のときの契約と違つて――三中のときには文部省推薦、それから工期が迫られていたということ、それから非常に堅牢にできる、耐震性があるということ、大体三つぐらいの特色があつて契約を結ばれたわけでございますが、今回の場合はそれらと比較しますとかなり地元の業者を選択しているというように――これは五十一号、五十二号議案に關連してしまつてございしますが、議案のほうは分けてありますので――こちらのとらえ方としてはそういうふうに考えられますが、もしそういう趣旨が多分に動いていてこの契約にいったとすれば、この業者から請け負う小さな業者、中小業者があるかと思ひます。これらは實際どのように考えていいのかと思ひてゐるんですが、たとえば地元の業者に請け負わせる、地元業者を重点的に考えていく、地元の業者の育成のためにそういう趣旨を踏まえて契約を結ぶ、この趣旨は大変いいと思ひます。

しかし、その請け負った業者がまたいろいろと下請けに回すわけでございます。下請けに回さなければ工事が進まないわけでございます。そういうときに市という立場からどのように分離できるかという点を聞きたいわけでございます。どこまで分離できるか、分離できる範囲。

たとえば、一つの工事を見ましても、基礎工事から始まり――今回のものは鉄筋でございますので、基礎、鉄筋、内装、外装、電気、水道、防水等々、もっと分ければ分けられるかもしれませんが、そのへんは発注の分類の仕方といたしましては、市として基本的にどの程度まで考えられるか。一括して一建設業者に受け渡すという傾向がいままで強いわけでございますが、その発注の仕方の基本的な姿勢をいまここで聞いているわけでございます。いわゆるどのへんまで分離していける、可能なものであるか、市の考え方でございます。これは市の基本的な姿勢によって分離もできるし、まとめなければならぬし、あくまでも基本的な姿勢が反映してくるものであらうと思いますので、そのへんを確認しておきたいと思っておりますので、どのへんまで分類が可能なのか。

○総務部長（石田雄一君）　まず第一点の關係でございますけれども、随契によりまして一億二百万円で決定したわけでございますけれども、僅少の数字ということで、一ちよっとという回答をしておりますので、その範囲内で御了解いただきたいと思っております。

それから、工事が完成しまして以降の、修繕の箇所等が出た場合の、程度の問題もありますけれども、一応工事的物の引き渡しを受けまして、大体半年以内に何とかいろいろ状況の把握をし

たいわけでございますけれども、通常一般的な常識の範囲内で出てくる補修、そういうものを一応考えております。具体的にはケースバイケースで判定せざるを得ないというふうに考えるわけでございます。

それから、分離発注の關係でございすけれども、地元業者の育成等の観点から分離発注を行っていくという狙いがあるわけでございますけれども、一応分離発注の長所といたしまして、専門業者によりますところの責任施行ができ、かつ仕上がりがい、あるいは地元設備業者の受注の機会の確保、育成が得られる、あるいはまた個々の工事責任が明確になる、こういった点は十分把握いたしましたの選択をしております。幾つかのデメリットもあるわけでございますので、双方勘案いたしまして工期の問題、あるいは支払いの問題、責任の問題、そういう意味合いでの基準というものを考えております。

以上でございます。

○二〇番（石井武敏君）　工事の分離発注した場合の良い点、悪い点というような説明があったんですが、どの点がいいのか、どの点が悪いのか、私にはよくわからないんですけれども、その点を明確に説明してもらいたいと思います。

それから、学校施設を安全に保つ場合に、建物の保険等は――関連質問としてお聞きしたいんですが、災害保険みたいな形の保険、学校施設の。これはどのように義務づけられているのか。あるいは現在どのようになっているのか。御説明願いたいと思います。

○総務部長（石田雄一君）　第一の質問の内容でございすけれど

も、先ほど長所の関係幾つか申し上げて、それについての具体的な例ということでお話ししたんですが、たとえば今回の那古小学校屋内運動場改築工事という中に電気、給排水工事がございすけれども、その占める割合、たまたま今回のケースで申し上げますと九割程度になっているわけでございす。そのへんの割合の問題と、それから一括した場合の工期のより迅速な見通しが立つという観点から選んだわけでございまして、その他具体的な事業内容によって先ほど言いましたような長所、短所を含めての総合的な検討を加えるというふうにして考えているわけでございす。

もう一点については、ちょっと時間をちょうだいいたしたいと思ひます。

○議長（五十嵐 昇君） ただいまの答弁を保留いたしました、ほかに御質疑ございませんか。

暫時休憩いたします。

午前十時二十三分

休 憩

午前十時二十八分

再 開

○議長（五十嵐 昇君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

石井議員に対する御答弁を願ひます。

○総務部長（石田雄一君） 時間をちょうだいいたしましたして恐縮でございます。

先ほどの義務教育施設に關しましての火災の、いわゆる災害共済等の問題でございすけれども、当那古小の場合を申し上げますと、全国自治協会建物災害共済——これは任意のものでございすけれども、この災害共済に入つておるわけでございす。

なお、このほか全国市有物件災害共済会というのがございますけれども、那古小については全国自治協会建物災害共済に入っております。

○三番（網島憲治君） あとの問題にも關連いたしますが、今回の指名にあたりまして、指名された業者はどのようになつておりますか。

もう一つは、分離発注した——これは議会の議決を要しない額だろうと思いますが、もし入札済みであつたとすれば金額——たとえば給排水、電気、この金額をお教えいただきたいと思ひます。

○総務部長（石田雄一君） 三番議員の御質問にお答えをいたします。

まず、第一点の今回の指名競争入札におきます参加業者の關係でございすけれども、十社のうち市内業者五社並びに市外業者五社と以上十社によつたわけでございす。

それから、那古小学校屋内運動場改築工事によります分離発注の問題でございすけれども、本件は分離発注行つておりません。

○三番（網島憲治君） 市外業者の名前を教えてくださいたいと思ひます。

○総務部長（石田雄一君） 市外業者につきましては、清水建設株式会社、安藤建設株式会社、株式会社熊谷組、不動建設株式会社、飛鳥建設株式会社、以上五社でございす。

○議長（五十嵐 昇君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長（五十嵐 昇君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決すること御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって決定いたしました。

採 決

○議長（五十嵐 昇君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって議案第五十一号工事請負契約の締結については原案どおり可決されました。

質 疑 応 答

○議長（五十嵐 昇君） 次いで、議案第五十二号工事請負契約の締結について御質疑願います。

○一番（神田守隆君） 小学校と幼稚園ということでありすけれども、読んで理解できないのですけれども、小学校部分と幼稚園部分というのは、建物が一体のものという建物であるのか。それとも、そうではなくて幼稚園と小学校は別々の建物であるのか。もしそうであるとすれば、それをあえて一つの工事として入札に付したということと納得できないものがあるんですが、そこらへんについての御説明をお願いいたします。

○教育長（安田豊作君） 建物は一体の建物でございます。玄関を

入って右側の一階を幼稚園、二階及び左側を小学校というように建て方でございます。その理由は、幼稚園は一学級でございますので小学校と一体の運営をしたい、こういう考え方で建物は一体でございます。

以上。

○三番（網島憲治君） 先ほどと同じような趣旨でございますが、入札された指名業者、それから分離発注をされたかどうか、されたとすれば、もし入札済みであるとすれば、その金額をお示しいただきたいと思えます。

○総務部長（石田雄一君） 本件の入札の内容でございますけれども、十社のうち市内業者五社、それから市外業者五社でございます。

それから、分離発注の関係でございますけれども、本工事にかります電気、給排水の占める割合が――落札した価格につきましては、電気一千四百九十九万円、それから給排水の関係でございますが二千四百五十八万七千円でございます。

それから、本件の市外業者の名前でございますけれども、三菱建設株式会社、馬淵建設株式会社、清水建設株式会社、株式会社青木建設、戸田建設株式会社、以上五社でございます。

○二番（藤田益治君） 一点お教え願いたいんですが、仄聞するところによりますと、小学校と幼稚園を併設した場合に、文部省の補助金の率が違ってくるんじゃないかということなんですが、その点についてはどうか。

それから、いま一つは小、中学校を併設した場合の消防法の関係はどのようになるのか、そのへんに対してお答え願いたいと思

います。

○教育長(安田豊作君) 幼稚園と小学校を併設した場合の補助金の率については変わりありません。改築の場合三分の一——両方三分の一でございます。

それから、消防法の関係については、消防署と相談の結果、その具備すべきものを備えて許可になっております。

廊下は行き来できるようになっております。

○一三番(近藤好雄君) 一点お伺いしますが、これから建てる場所でございますけれども、そこに前々から赤線道路があるんですけれども——農道ですが、そのへんは処理してあるんですか。そのまま建てて、あとで大蔵省との関係が解決できますか。お伺いします。

○教育長(安田豊作君) その点については検討しております。差しつかえないような手続をとりたいと思っております。

以上。

○一三番(近藤好雄君) それから、隣接の許可が必要ではないかと思いますが、その点はどうのようになっておりますか、お伺いします。

○教育長(安田豊作君) 古い話になっておりますが、そのほりも話も進めてあります。

○一三番(近藤好雄君) 承諾でないかと思えますけれども、それにかわるべき道を前につくったんですけれども、まだその点がはっきりしてないところがありますが、これからそのほりも進めていただきたいと思えます。

○議長(五十嵐 昇君) 他に御質疑ありませんか。——御質疑な

しと認めます。よって質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長(五十嵐 昇君) お諮りいたします。

本案については委員会付託並びに討論を省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(五十嵐 昇君) 御異議なしと認めます。よって決定いたしました。

採 決

○議長(五十嵐 昇君) これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(五十嵐 昇君) 御異議なしと認めます。よって議案第五十二号工事請負契約の締結については原案どおり可決されました。

閉 会 午前十時四十分閉会

○議長(五十嵐 昇君) 以上で本臨時会に付議されました案件は議了されました。

よって、これにて第三回市議会臨時会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件

一、会議録署名議員の指名

一、会期の決定

一、議案第五十一号及び議案第五十二号

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長

五十嵐

昇

館山市議會議員

栗

原

一

雄

館山市議會議員

流

山

源

次

郎